



スパークス・プレミアム・日本超小型株式ファンド

愛称: 価値発掘

マンスリーレポート

基準日 2020年11月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	MSCI Japan Micro Cap指数 (配当込み)	第6期 2018/7/23	200
過去1か月間	9.99	5.96	第7期 2019/1/22	100
過去3か月間	12.81	7.11	第8期 2019/7/22	100
過去6か月間	15.76	10.95	第9期 2020/1/22	100
過去1年間	4.10	3.45	第10期 2020/7/22	100
過去3年間	-0.56	0.33	設定来累計	1,000
設定来	95.36	67.59		

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【資産別構成】

資産種類	比率(%)
株式	90.4
投資信託証券	0.0
その他株式関連証券	0.0
現金その他	9.6

※比率は対純資産総額

【株式市場別構成】

市場	比率(%)
東証1部	56.1
ジャスダック	13.1
東証マザーズ	12.5
東証2部	8.7
その他市場	0.0
株式組入比率	90.4

※比率は対純資産総額

【株式規模別構成】

株式規模	比率(%)
超小型株	75.0
小型株	15.4
中型株	0.0
大型株	0.0

※比率は対純資産総額

※「株式規模」はスパークス・アセット・マネジメントにより次のとおり定義
超小型株 時価総額合計の下部2%以下
小型株 時価総額合計の下部15%~2%
中型株 時価総額合計の下部30%~15%
大型株 時価総額合計の上部70%以上

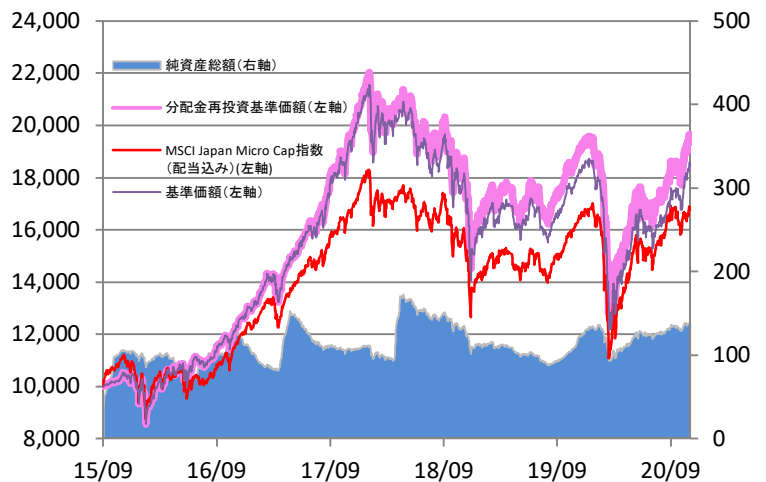
【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
18,470 円	18,378 円	137.62 億円

ハイ・ウォーター・マーク 20,317 円

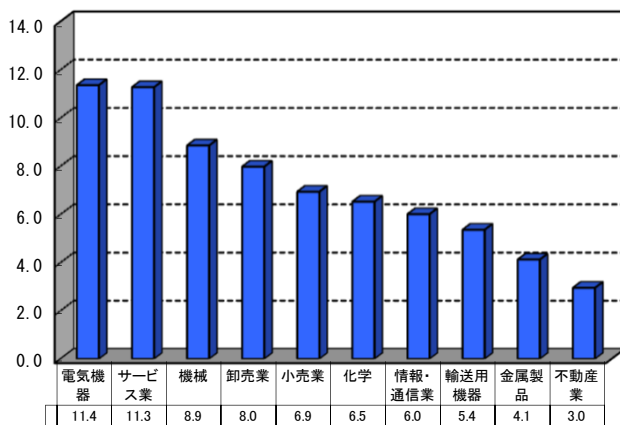
※基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年1月22日および7月22日、休日の場合は翌営業日)に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。

※2015年9月29日(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)



※当ファンドはMSCI Japan Micro Cap指数(配当込み)に連動するものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
※基準価額は、信託報酬等控除後です。

【株式業種別構成 上位10業種(%)】



※比率は対純資産総額

【組入有価証券 上位10銘柄】

(銘柄総数: 84銘柄)

	銘柄	市場	業種	比率(%)
1	東京製綱	東1	金属製品	2.0
2	ニッポン高度紙工業	JQ	パルプ・紙	2.0
3	SEMITEC	JQ	電気機器	1.9
4	鈴木	東1	電気機器	1.7
5	エフオン	東1	電気・ガス業	1.7
6	第一カッター興業	東1	建設業	1.6
7	ULSグループ	JQ	情報・通信業	1.6
8	ピックルスコポーレーション	東1	食料品	1.6
9	エヌ・ピー・シー	マザーズ	機械	1.6
10	オカダアイオン	東1	機械	1.5

※略称は下記の取引市場を指します。 ※比率は対純資産総額
東1: 東証1部、東2: 東証2部、マザーズ: 東証マザーズ、JQ: JASDAQ

※上記記載のうち、純資産総額に対する比率については、マザーファンドへの投資を通じて実質的に投資している各投資資産の時価残高を含めて算定しています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われます。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



スパークス・プレミアム・日本超小型株式ファンド マンスリーレポート

愛称・価値発掘

基準日 2020年11月30日

◆株式市場の状況

11月は、新型コロナウイルス用ワクチン開発の進捗報道を好感して、世界的に株式市場が大きく上昇し、日本株式市場も大きく上昇しました。

不振が続いていた景気敏感株が、「経済活動の正常化」への期待から大きく反発しました。

この結果、TOPIX（配当込み）は前月末比11.14%上昇し、当ファンドの参考指数は同5.96%の上昇と、大型株よりも上昇率は低い状況でした。外国人投資家が買いに転じたことが株価上昇の一因ですが、外国人投資家が指数や大型株中心に投資したため小型株の上昇率が小さかったのではないかと考えます。

◆ファンドの運用状況

当ファンドは、前月末比9.99%の上昇と、参考指数の同5.96%の上昇を4.03%上回りました。

当月のプラス貢献銘柄は、日本アジアグループ、SEMITEC、東京製綱などでした。

日本アジアグループは、太陽光発電開発や航空測量などを手掛ける企業ですが、海外ファンドからTOB（株式公開買付）されたため大きく株価が上昇しました。温度センサー素子を製造するSEMITECは、体温計や血糖値測定向けや電動自動車向けに販売が拡大し2021年3月期の通期業績の上方修正を発表したことが株価上昇の要因と考えます。各種ケーブルを生産する東京製綱は、炭素繊維を使ったCFCCケーブル(Carbon Fiber Composite Cable)が米国の大型プロジェクトに使われることが発表されたことが好感されました。

一方、マイナス影響銘柄は、ライドオンエクスプレスホールディングス、スクロール、日本ホスピスホールディングスなどでした。

「銀のさら」の出前寿司などを運営するライドオンエクスプレスホールディングスは、巣ごもり需要で業績は好調ですが、株価上昇の反動で利益確定売りに圧されたと考えます。化粧品健康食品のインターネット販売や生協向け販売などを行うスクロールも、同様に巣ごもり需要で業績好調のため株価が急上昇した反動と思われる。末期患者のケアを行う日本ホスピスホールディングスは、先行投資によるコストアップで2020年12月期第3四半期決算の減益を発表したことが嫌気されたと考えます。

当月は急騰した2銘柄を全売却し、一方で、日本ホスピスホールディングスの買い増しに加えて、割安になったと判断した建設関連1銘柄、外食関連2銘柄、合計3銘柄に新規投資しました。

◆今後の運用方針

当月、日本株式市場は大きく上昇し日経平均株価は1991年以来の高値を更新し、TOPIXも昨年来の高値を更新しました。金融緩和などによる「カネ余り」の結果と思われるが、経済実態が「コロナ禍」前の状況に戻るには数年かかると言われており、経済実態から乖離した日本株式市場の状況には注意が必要と考えます。

一方、発表される2021年3月期中間決算では、当初予想が保守的であったこともあり、大半の企業が計画を上回る決算を発表しており、投資環境は良好と言えます。

個別銘柄を見ると、巣ごもり需要の影響で好調に推移していた企業業績の勢いは鈍化しているのも事実であり、それらの企業は市場の失望から株価急落するリスクは高まっているとは思いますが、経済状況の正常化に伴い、今まで放置されていた銘柄の上昇余地は大きいと考えます。

小型株においても出遅れ銘柄が多く、11月も大型株に出遅れていることから、株価の下落懸念よりも上昇余地は高いと考えます。

運用方針としましては、引き続き大きく上昇が続いた銘柄の売却を進めていく一方で、放置されている業界の中で割安感が強く成長期待が高まっていると判断する銘柄への投資を進めてまいります。TOBなどの買い圧力で割安銘柄が急騰するケースが増えており、「見過ごされている割安銘柄」にも注視してまいります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社に購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。